



上稲子社有林より富士山を望む



▶ 環境・社会との共生を目指して

王子グループ環境憲章の基本理念「王子グループは、広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献する。そのためいっそうの環境改善に取り組むとともに、森のリサイクル、紙のリサイクル、地球温暖化対策などを積極的に推進する」に基づき、2020年に向けた「環境行動目標」を掲げて、グループ全体で企業活動を展開しています。

持続可能な森林経営

●国内社有林概況

保有面積

19万ha

森林認証

分収林を除く約17万haで
SGEC認証取得済み

●海外植林概況

植林面積

26万ha

森林認証
(FSC®、PEFC)

森林認証取得率

69%

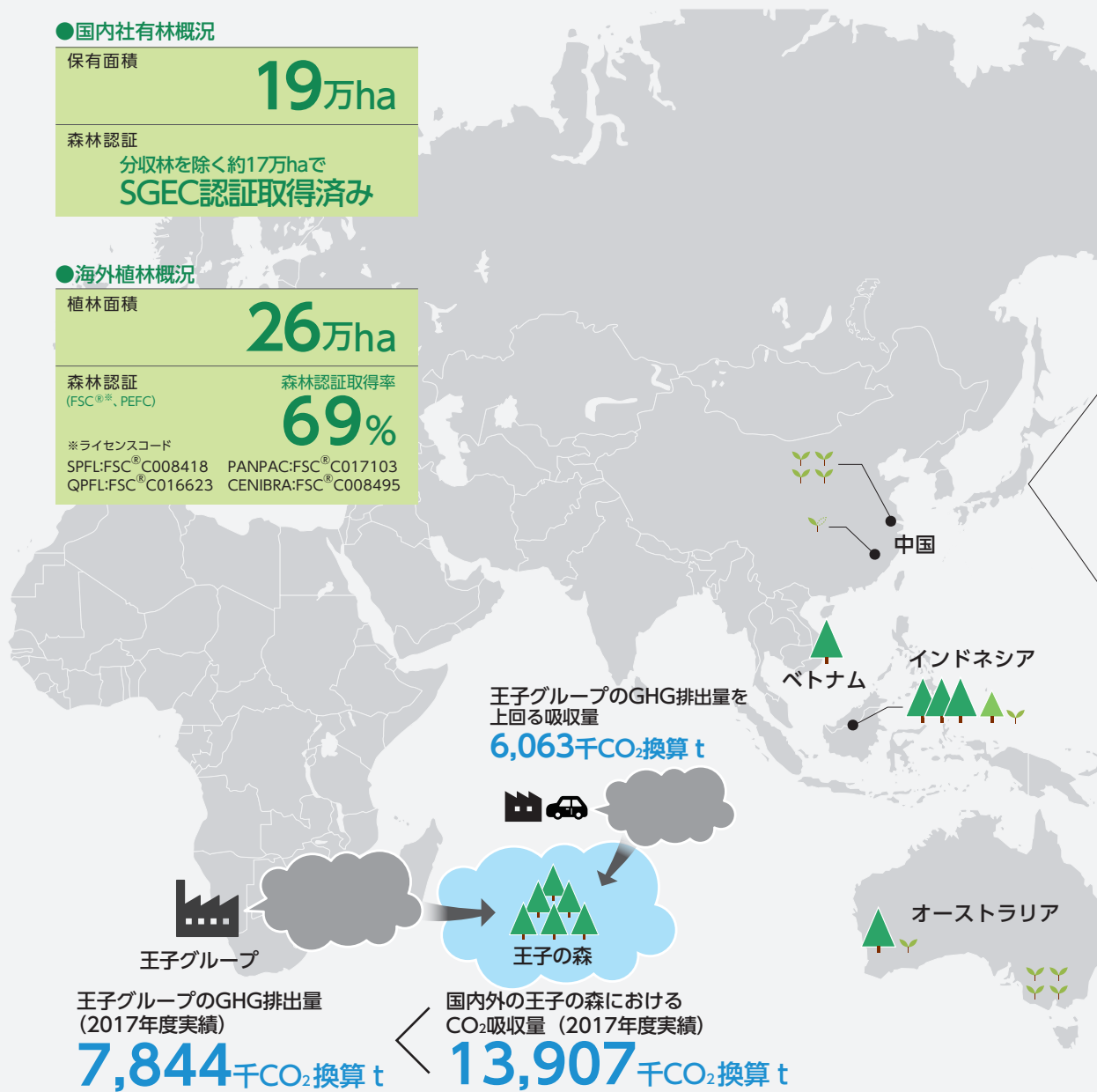
※ライセンスコード

SPFL:FSC®C008418

PANPAC:FSC®C017103

QPFL:FSC®C016623

CENIBRA:FSC®C008495



森林の機能

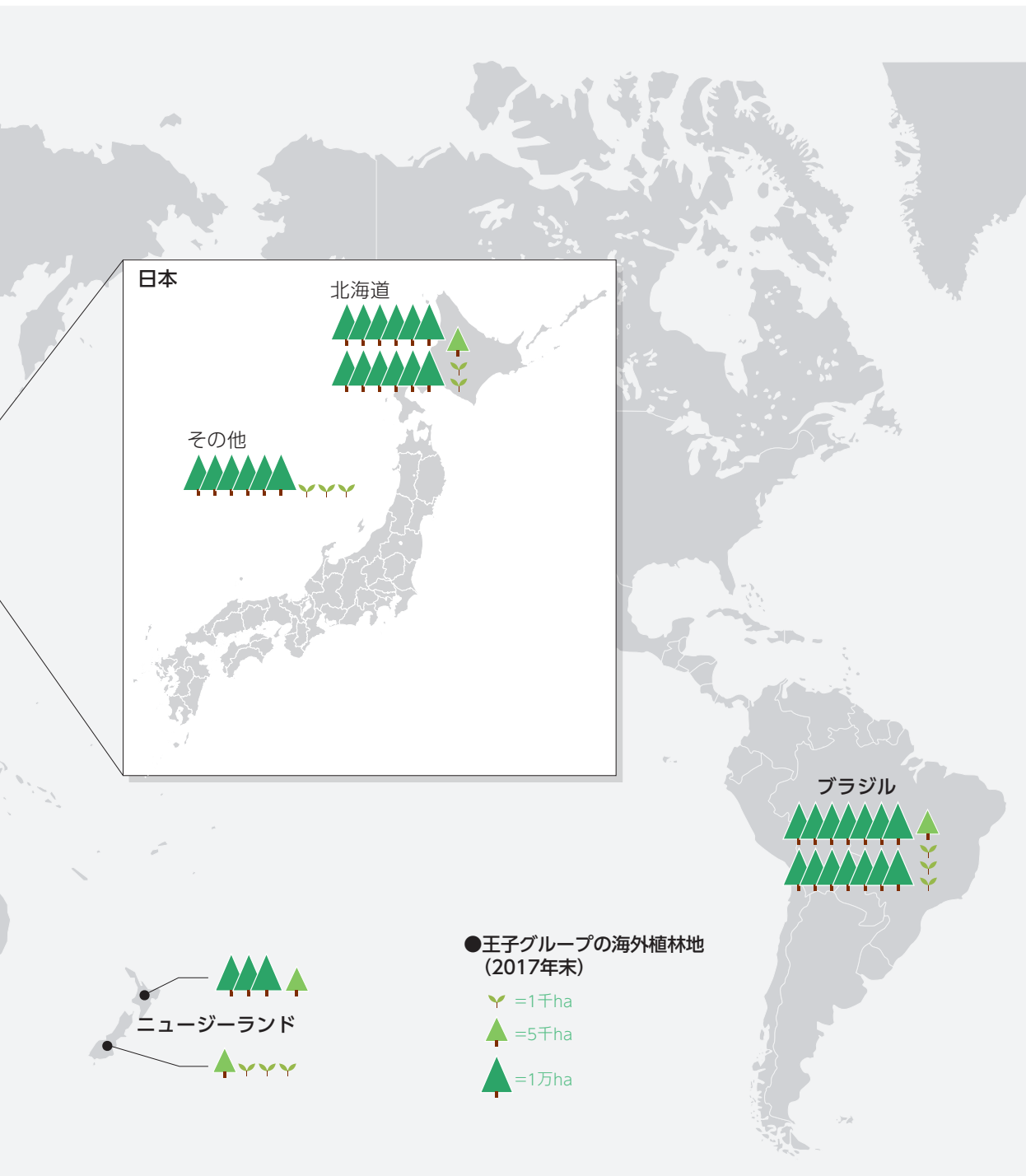
CO₂の吸収

水源涵養

生物多様性保全

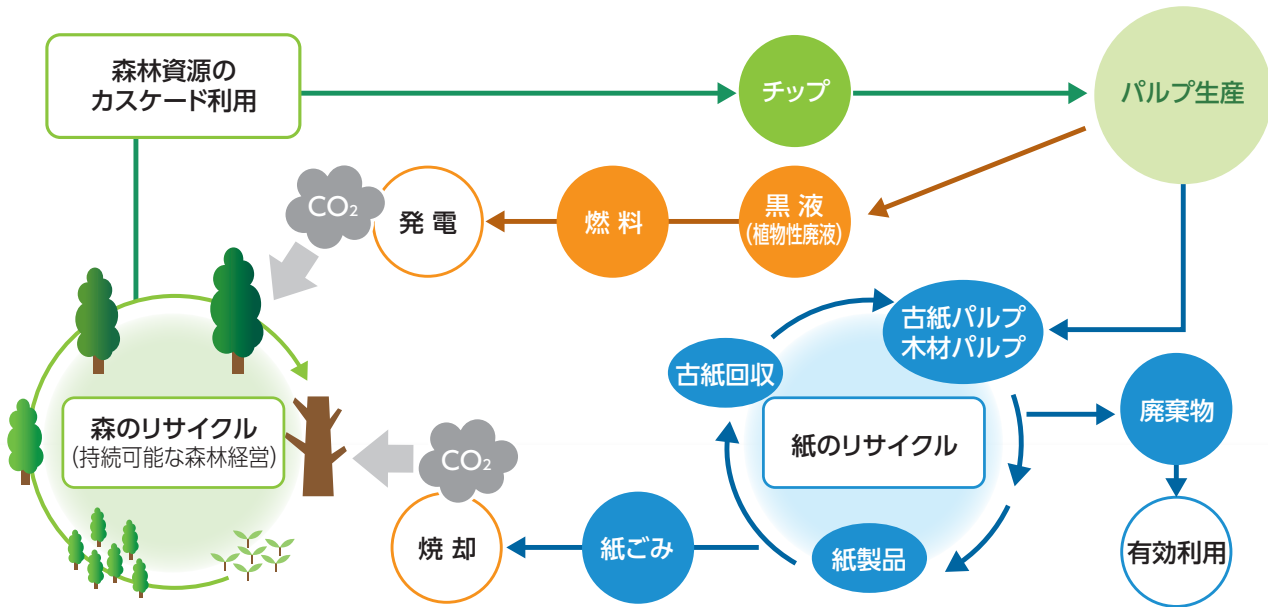
土壌保全

資源利用



▶ 環境負荷ゼロに向け、限りなく挑戦

～森・紙のリサイクル～



森のリサイクル

王子グループは、「木を使うものは木を植える義務がある」という考えのもと、植林を行い育った木を伐採して原料にすることを繰り返しながら、「持続可能な森林経営」に古くから取り組んでいます。現在、第三者機関による「森林認証」の取得も推進しています。国内では分収林を除く17万ha全てでSGEC森林認証を取得、海外でも18万ha(69%)でFSC®等の森林認証を取得しています。取得率向上を目指して今後も森のリサイクルと森林認証取得を推進していきます。

紙のリサイクル

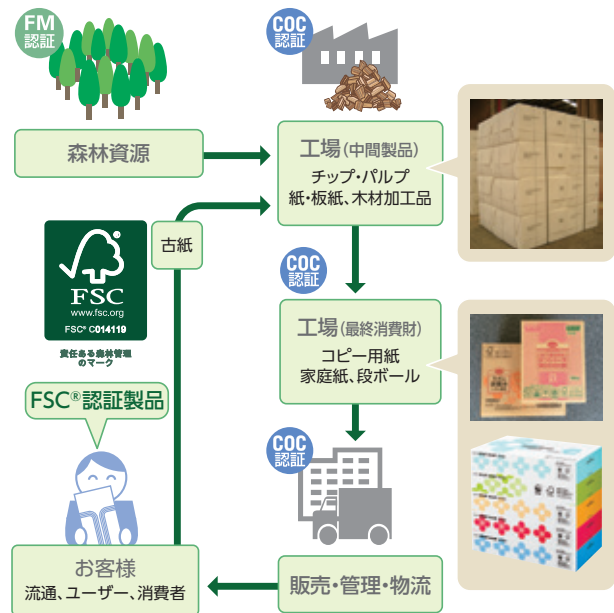
王子グループでは製紙業界の自主目標である2020年度古紙利用率65%達成に向けて紙のリサイクルに継続して取り組んでおり、2017年度の利用率は64.0%でした。さらなる利用率アップを目指し、機密書類や難処理古紙の利用拡大や、品質向上のため業界と連携強化していきます。

FSC® 認証製品：環境配慮型製品の供給

王子グループでは、海外植林事業においてFSC® FM 認証※1を取得、またグループ内の生産・加工事業においてはCOC認証※2を取得しています。森から加工工場まで一貫して認証を取得することにより、原木や木材チップ・製材品といった一次加工品から、パルプのような二次加工品、さらにはコピー用紙、家庭紙、段ボールといった最終製品まで、多種多様なFSC® 認証製品を供給可能です。また、最終製品は古紙として再利用されます。2015年より全ての古紙がFSC® クレジット付与の対象となり、FSC® マーク付の段ボール製品の製造にも積極的に取り組んでいます。

※1 FM認証：森林そのものの管理を確認

※2 COC認証：生産された木材の加工流通過程の管理を確認



SGEC認証

SGEC (緑の循環認証会議) とは、日本独自の森林認証制度です。王子グループ国内社所有林では分収林(土地所有が他者)を除きSGEC-FM認証を取得しています。また、COC事業体としては国内林業部門である王子木材緑化が認証を取得しています。SGECでは、2016年度にPEFC(各国・地域の森林認証基準を相互認証する国際団体)との相互認証を調印し、SGECは国際的評価を得ることとなり、海外市場に対しても認証木材として進出できることとなりました。

生物多様性保全の取り組み

国内での取り組み

- ・ 絶滅危惧種の魚類(イトウ)の保全(北海道 猿払社所有林)
猿払イトウ保全協議会 <http://www.sarufutsu-icc.gr.jp/index.html>
- ・ アポイ岳高山植物の保全(北海道 様似社所有林)
- ・ ヤイロチョウの保護(高知県 木屋ヶ内社所有林)

海外での取り組み

- ・ 絶滅危惧種であるムトゥン(ハウカンチョウ)の繁殖・飼育活動(ブラジル)
- ・ キウイ保護活動の協働実施(ニュージーランド)



ムトゥン



キウイ

▶ 環境負荷ゼロに向け、限りなく挑戦 ～ゼロ・エミッション～



環境事故ゼロ、製造物責任事故ゼロ

事故の未然・再発防止に取り組むとともに、その検証を行い、環境事故ゼロおよび製造物責任事故ゼロの継続を目指しています。

環境事故件数 ※1		
	2020年度目標	2017年度実績
国内外	0件	6件

※1 環境法令等の規制値超過を環境事故と定義

製造物責任事故件数		
	2020年度目標	2017年度実績
国内外	0件	0件

温室効果ガス(GHG) 排出原単位低減

バイオマス燃料等の再生可能エネルギーの利用拡大や、省エネルギー、燃料転換により、GHG排出原単位の低減を図っています。

GHG排出原単位 ※2		
	2020年度目標 (2013年度比)	2017年度実績 (2013年度比)
国内外	10%以上低減	8%低減

※2 GHG排出原単位 [CO₂換算t/t] = 排出量 [CO₂換算t] ÷ 生産量 [t]

廃棄物の有効利用の推進

廃棄物の発生抑制、発生した廃棄物の有効利用の両面から、廃棄物の埋立量の削減を進めています。

有効利用率 ※3		
	2020年度目標	2017年度実績
国内	99%以上	98.3%
国外	95%以上	89.1%

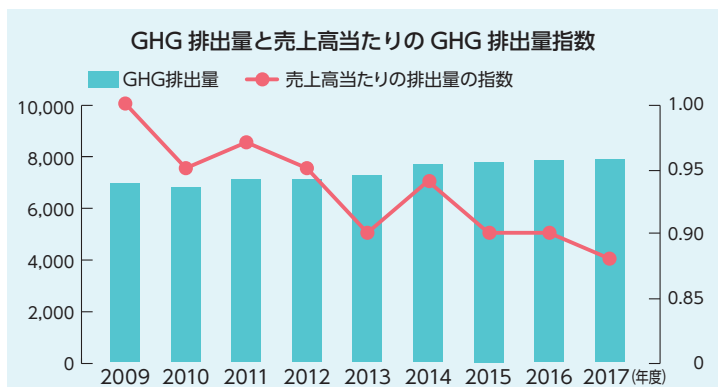
※3 廃棄物の有効利用率 [%] = (発生量 [t] - 埋立量 [t]) ÷ 発生量 [t] × 100

生態系に配慮した排水・排気の管理

環境法規制の遵守、環境負荷物質の削減に努めるとともに、生態系に配慮した排水・排気の管理の検討を進めています。

【トピック】

王子グループは、2010年度以降、海外展開を加速しており、パッケージング事業やパルプ事業を拡大させてきました。その結果、GHG総排出量は増加していますが、売上高当たりのGHG排出量の指数は低減傾向であり、低炭素の事業構造に転換してきているといえます。



▶ 責任ある原材料調達

王子グループは国連グローバル・コンパクトや「王子グループ企業行動憲章」「王子グループ環境憲章」の理念に基づいた「王子グループ・パートナーシップ調達方針」および「木材原料の調達指針」に従って原材料の安全性や合法性を確認し、環境・社会に配慮した責任ある原材料調達に努めています。

なお、当グループ内関係各社は2017年5月20日に施行されたクリーンウッド法に定める登録木材関連事業者に登録されています。

王子グループ・パートナーシップ調達方針

- ① 安定供給の確保
- ② 法令・社会規範の遵守と公正な取引
- ③ 環境への配慮
- ④ 社会への配慮
- ⑤ 社会とのコミュニケーション

● パルプ・木材原料の調達

原材料の中でも適切な利用が求められている木材原料については、「木材原料の調達指針」を定めています。調達指針に従って、パルプを含めた木材原料を調達しています。



QPFLにおけるFSC® FM認証監査の様子
ライセンスコード：FSC® C016623

● 木材原料の調達指針

- ① 森林認証材の拡大
- ② 植林木の増量、拡大
- ③ 未利用材の有効活用
- ④ 調達における法令遵守、環境・社会への配慮等の確認
- ⑤ 情報公開（ウェブサイト）

https://www.ojiholdings.co.jp/sustainability/forest_recycling/view.html

● トレーサビリティの確認

トレーサビリティレポートにより、木材原料の出所に遡り、適切に管理された森林により産出されたものであることを確認しています。また林地・チップ加工、船積み現場を定期的に現地調査するとともに、行政やその関係者に違法伐採等の問題が起きていないか等のヒアリングも行っています。

王子グループでは、世界中に広がる拠点それぞれで、スポーツや文化の普及および発展、地域住民の健康増進や教育等に関わる様々な活動・支援を行っています。

▶ 文化

藤原科学財団

日本の製紙王と言われ、私財を投じて藤原工業大学（現慶應義塾大学理工学部）を創設したこと等で知られる藤原銀次郎によって設立されたのが藤原科学財団です。日本の科学技術復興に寄与することを目的とする藤原科学財団では、今年で59回目となる「藤原賞」の贈呈、年に2回の「藤原セミナー」開催の支援を実施しています。藤原賞は日本の科学技術の発展に卓越した貢献をした方を顕彰する、歴史と権威ある賞として知られます。歴代受賞者からはノーベル賞受賞者も複数誕生しています。

王子ホールディングスは、主に財政面から財団の支援を続けています。

ホームページ：<http://www.fujizai.or.jp/>



第59回藤原賞贈呈式



永長直人 理学博士
(理化学研究所 創発物性科学研究センター
副センター長)



門脇孝 医学博士
(東京大学大学院 医学系研究科特任教授
/帝京大学医学部 常勤客員教授)

王子ホール

2017年に25周年を迎えた王子ホールは、王子ホールディングス本社ビルの中にある315席の本格的な音楽ホールです。銀座という立地を活かした「銀座ぶらっとコンサート」等の多彩な主催公演を企画する他、室内楽やリサイタル向けの貸ホール事業を行っています。アットホームな雰囲気のホールは、小規模ながら、国内の演奏家や音楽ファンだけでなく、欧米の著名な演奏家からも高い評価を受けています。

2018年は諸設備更新のため大規模な改修工事を実施し、10月25日にリニューアル・オープンしました。

ホームページ：<https://www.ojihall.jp/>



王子ホール 25周年ハッピーバースデー・コンサート
MAROワールド Vol.32 by 篠崎“まる”史紀&MAROカンパニー

▶ 地域医療



王子総合病院

古くは王子製紙苫小牧工場の厚生施設として開設された王子総合病院は、440床、22科を有し、高性能で良質な医療を効率的に地域に提供する地域基幹病院です。災害拠点病院、地域がん診療連携拠点、地域周産期センターに指定され、公的な役割も持っています。北海道苫小牧市から委託を受けた中央地域包括支援センターや附属看護専門学校、介護老人保健施設等との施設間で連携をとり、安心して安全な医療提供に努めています。

ホームページ：<http://www.ojihosp.or.jp/>



▶ スポーツ

王子グループでは、王子製紙春日井工場を拠点とする王子硬式野球部、北海道苫小牧市を拠点とするアイスホッケーチーム“王子イーグルス”が活動しています。それぞれが競技力の向上を目指しながら、競技の普及活動にも力を入れています。



アイスホッケーの試合



▶ 環境教育

王子の森・自然学校

王子グループの工場・社有林等を活用した、子ども向けの自然体験型環境教育プログラム「王子の森・自然学校」を公益社団法人日本環境教育フォーラムと協働で実施しています。自然観察や間伐体験といった森林に関連したプログラムに加え、製紙工場を見学することで「森、人、産業のつながり」を学ぶこのプロジェクトは、2018年で14回目を迎えました。

王子の森・自然学校ホームページ

https://www.ojiholdings.co.jp/sustainability/forest_recycling/school/



▶ 海外の取り組み



nepia 千のトイレプロジェクト

世界には、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状等で命を落としている子どもたちがいます。その事実に対し、2008年から毎年商品の売上の一部で、ユニセフによる東ティモールでのトイレづくりと衛生的な暮らし等の支援をサポートする「nepia 千のトイレプロジェクト」を立ち上げました。東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守るため、継続的な支援を行っています。

ホームページ：<https://1000toilets.com/>



千のトイレプロジェクト

各国における活動

・江蘇王子製紙が所在する中国・南通市において、南通市慈善会、南通市開発区慈善会と共同で「王子慈善教育基金」を設立し、現地の教育環境向上を支援しています。

・植林事業を行っているベトナム・ビンディン省で医師不在地域への医師団派遣や保育園の補修等の活動を支援しています。

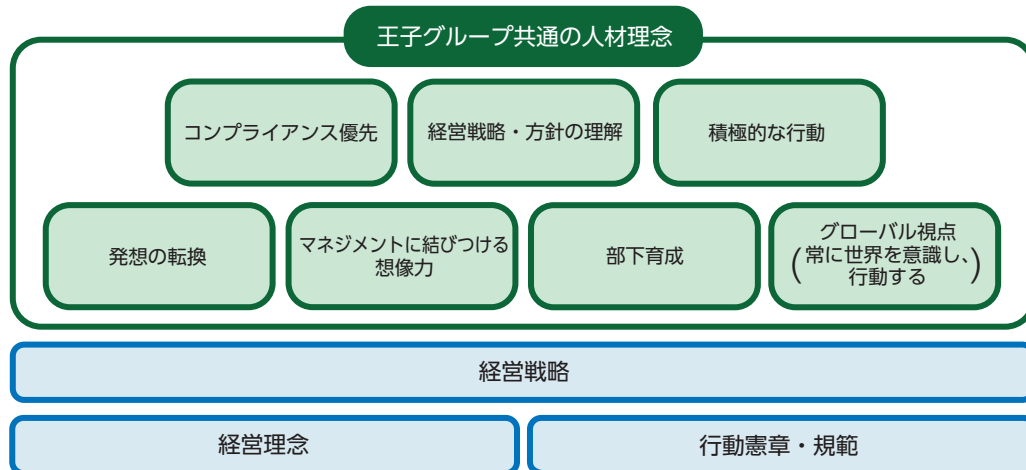
・ブラジルでは障がい者スポーツの協会や貧困層の子どもたちを支援する基金等への寄付を通じて社会貢献を実現しています。



園周りに柵を設置したベトナムの保育園



企業の競争力を強化し、継続的に発展するには、価値観の多様性と柔軟性は非常に重要です。王子グループはグローバル企業として「領域をこえ 未来へ」成長するため、「企業の力の源泉は人材にあり」という大原則の下、社員一人ひとりが価値観の多様性、発想の柔軟性を身につけ、能力を高めるために、「人材育成」「働き方改革」「ダイバーシティ推進」に取り組んでいます。



▶ 人材の育成

1. 次世代育成

経営戦略完遂の成否のカギ（特にマネジメント能力）となるグループ会社の経営を担う中核となる人材を育成します。

【取り組み内容】

- ・中核幹部研修（王子塾）

2. グローバル人材育成

人材の発掘・育成に取り組む一方で、社外から優秀な人材を積極的に採用しています。

【取り組み内容】

- ・語学研修
- ・海外事業場研修（主に中国・東南アジア）

3. 管理職研修・職種別研修

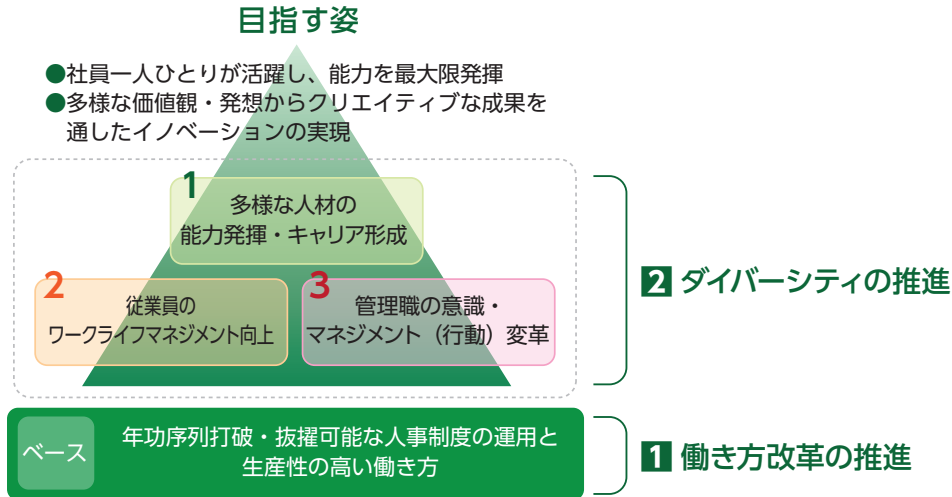
事業構造改革を核とする経営戦略を完遂するため、各カンパニーにおいて求める人材像を明確にし、意識改革の研修や部門別の研修に取り組んでいます。

【取り組み内容】

- ・新人事制度導入に伴う部長研修
- ・新任管理職研修
- ・営業職研修

働き方改革とダイバーシティの推進

多様な人材が活躍できるように、取り組みを進めています。



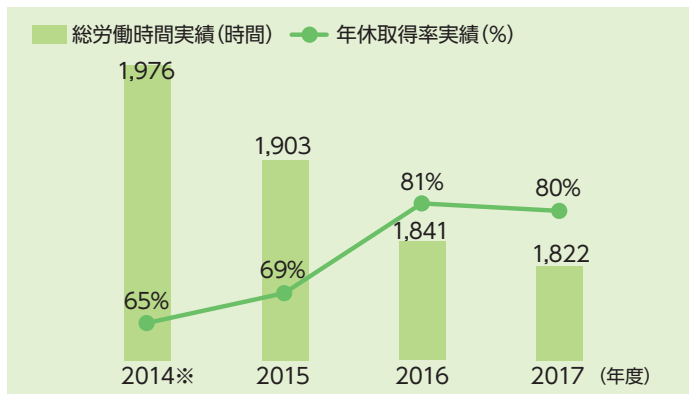
1 働き方改革の推進



1. 総労働時間削減と業務の効率化

業務改革を実施し、総労働時間削減に取り組んでいます。

総労働時間削減と年休取得率の実績（王子グループ本社地区）



※下期より働き方改革スタート

2. 働き方改革を推進する人事制度改訂への取り組み

【取り組み内容】

① 役割等級制度

年功序列を打破し、早期抜擢をするため、各人に求められる役割を明確にし、その役割を果たしたか否かで評価。

② 認定研究員制度

革新的価値を創造させるために、特に高度な専門知識を有する研究員に、研究に集中できる環境を提供。

③ 65歳定年制

会社生活で培った知識、技術、技能を存分に発揮し、意欲を持って働けるよう、2017年度より導入。



2 ダイバーシティの推進

1. 多様な人材の能力発揮・キャリア形成

【女性活躍推進】

- ・女性管理職育成のための研修
(対象：女性部下を持つ管理職、管理職候補の女性、若手女性総合職)
- ・部長候補女性管理職の社外研修派遣
- ・事業場における女性活躍モデル構築 (女性の職域拡大促進)



管理職候補の女性を対象とした研修

【社外からの評価】

経済産業省・東京証券取引所 「なでしこ銘柄」

(対象：王子ホールディングス、王子マネジメントオフィス)



厚生労働省 「えるぼし」

(対象：王子ホールディングス)



【MSCI日本株女性活躍指数】

(2018年6月現在)

(対象：王子ホールディングス)



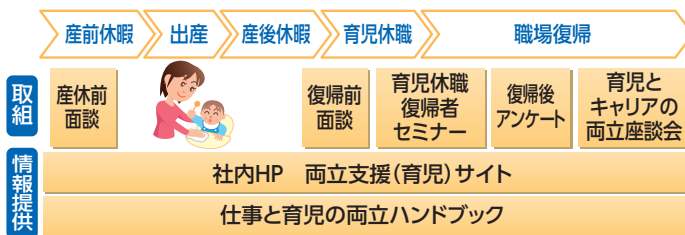
【障害者の活躍支援】

グループ全体で雇用を促進するために「障害者雇用3カ年計画」を策定。

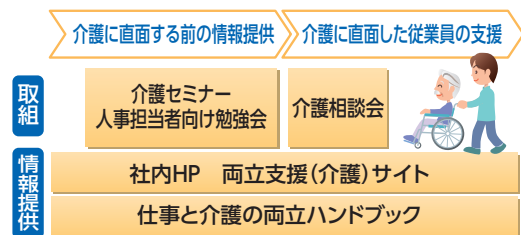
2. 従業員のワークライフマネジメントの向上

育児や介護中の従業員が、仕事と両立をしながら活躍できるための様々な制度を導入しています。

【仕事と育児の両立支援】



【仕事と介護の両立支援】



【主な両立支援制度】

- ・早期育児休職復帰者への保育所補助制度
- ・男性従業員の育児支援休暇制度 (連続5日間有給)
- ・積立保存年休の時間単位利用 (育児・介護)
- ・配偶者の海外転勤に帯同する場合の休職制度



育児休職復帰者セミナー

【企業主導型保育施設「ネピア ソダテラス」^{*} 開設】

育児との両立支援、女性の活躍推進、そして企業の社会的責任から待機児童対策に寄与することを目的に、東京都江戸川区のグループ会社敷地内に2018年4月2日、保育園「ネピア ソダテラス」を開設しました。

^{*}ソダテラスとは「育て（大切に、すこやかに）」「照らす（未来を明るく）」「テラス（園庭で安心して遊べる）」の3つの意味



3. 管理職の意識・マネジメント(行動)変革

【取り組み内容】

- ・ダイバーシティ推進委員会主催勉強会
- ・役員・部長向けダイバーシティマネジメント研修
- ・管理職ラウンドテーブル